

特別の教育課程『海洋人間学』の編成について

(A) 特別の教育課程『海洋人間学』の開始

2015(平成 27)年 4 月 1 日より、文部科学省により教育課程特例校として認められ設置された。2017(平成 29)年にはこの取り組み期間を『『海洋人間学』を特例として設置する必要がなくなるまでの期間』と規定し直し、現在に至る。

(B) 特別の教育課程『海洋人間学』の概要

本校の『海洋人間学』は、人間の生活と自然環境の関係の捉え直しと新たな関係の構築のため、また人間が社会で果たすべき役割や生き方の探究のために、中学校教育課程において設立された。

ヨット製作実習、ヨット帆走実習、遠泳実習など体験的な学習を通じて、海洋に関する存在論的な学びを促し、人間にとっての海の在りようや海に対峙した人間の在りようを考察し学ぶ。

海洋講座、外部講師による海洋に関する特別講義などを通して、海の生物に関する知見や地球物理学的な海に関する知見、海上貿易等の海が育んできた文化に関する知見など、海洋に関する興味関心を伸ばし知識や教養を深める。

以上のことは、保健体育、技術・家庭、理科、社会、総合的な学習の時間などの教科横断型の総合的な教育として実施する。

(C) 特別の教育課程『海洋人間学』を設置するねらい

本校は海に面した地の利を活かし、ヨット帆走実習や遠泳実習など海を活動の場とした教育を実施してきた。これらの活動で養われる力や態度は、ある特定の状況下でのみ発揮できるだけでなく、国内や海外を問わず広く社会生活を営むなかで、柔軟に展開されなければならない。そのためには、社会生活を支える基底として、「海と人との関係」にもとづいた人文社会科学および自然科学を含んだ総合的な観点からの基礎的な学びと先端的な学びが求められる。習得した基礎知識を活用して生きた技能とし、知識・技能のうえに自分たちが生きているということを体得させ、自立して生き抜いていく力や態度を養う必要がある。海との関わり方についての能力・態度形成は、海に囲まれた日本においては東日本大震災の経験後、防災の視点からの関わりなどを含め、さらに必要となる。これは市民として身につけておくべき基礎的なリテラシーである。

上記の理由により、「海と人との関係」についての教科横断型の総合的な教育を実施するために、特別の教育課程『海洋人間学』を編成する。

(D)中学校の教育課程における特別の教育課程『海洋人間学』の位置づけ

本校の中学校教育課程表

	1年	2年	3年
国語	5	5	6
社会	3	3	4
数学	6	6	6
理科	4	4	4
音楽	1.3	1	1
美術	1.3	1	1
保健体育	3.4	3	3
技術・家庭	2	2	1
英語	6	7	6
道徳	1	1	1
特別活動	1	1	1
総合的な学習の時間	※1	※1	※1

★上記の表は、年間総授業時間数を週当たりの時数に換算し表記している。

また、※は、この他に特別授業がある。

★『海洋人間学』は、上記の表のうち、「技術・家庭」「保健体育」の授業時間の一部を充てている。

『海洋人間学』の週当たり授業時数…中学1年 0.5（「技術・家庭」0.5時間分）

中学2年 0.4（「技術・家庭」0.4時間分）

中学3年 0.4（「技術・家庭」0.2時間分と「保健体育」0.2時間分）